

「ルカノール伯爵」(8)

——パトロローニオの書——

ドン・ファン・マヌエル
木 原 太 源 訳

ルカノール伯爵とパトロローニオの書 第二部

ヘリカの領主、ドン・ハイメの
友情に対するドン・ファンの献辞

予、ドン・ファン、いと高貴なるドン・マヌエル親王の子、ムルシア王国及び辺境領の大総督は、教訓談を用いて語られるルカノール伯爵とパトロローニオの書を著わす際、その本文と序文で述べているように、平易であると思える方法で記すよう努めた。それは予の学識の無さから行ったことである。つまり、予と同じく無学の者たちに必ず役立つことを願って、説明や物語を平易な表現で著わした。

この世で最も敬愛する御仁の一人、おそらく、他の誰よりも

敬愛するヘリカの君主、ドン・ハイメは、予の著作がよりあいまいに記されるのを好むと申され、次ぎはそうなることを願われた。こう申されたのも、ご自身が明敏にしてすぐれた知性の持主なので、単純明快に記述するのは知性の無さの故とお考えであるのは間違いない。

これまでは先述した理由で著わしてきたが、何事に点けても、早速にも、彼の意に添わざるを得ないと考えるので、本書では、魂の救済、肉体の利及び富と名譽の保持のために、人に役立ち得ると考える種々のことについて述べることにする。こういったことは、神学或は形而上学または自然科学か道徳哲学、或はその他の難しい学問について述べるのであればうかつには取り扱えないが、そうではないので、予の状態から、他の学問や学芸について述べるよりも、このような問題について述べる方がよりふさわしく有益であると考える。予が述べたいと思っていることは難しいことではないので、神の助けを借りて、ドン・ハイメほどのすぐれた知性の持主の方々には容易く理解する言葉で述べることにする。予は本書をこれまでと同じ様に著わしただけであるから、理解の至らぬ人はそれを予のせいにはせず、予にそれを求められたドン・ハイメと、理解出来ない、または、そのつもりもないご自身のせいにされんことを。

ここに、予が本書をこのように著わそうとした理由を述べる序を終え、これより本文に入ることにする。神はその慈悲の御心を以て本書を読みかつ聴く者の為となるよう、また、非難さ

れることを予が述べぬよう、お守り下さろうとなさっている。本書やこれまでに著述したのから、生命や財産に役立つことを見出さない下らぬ者に受け継がれるものはないと考える。ここでは他で述べたことをひとつも繰り返したくなかったからだ。しかしながら、総ての書からひとつの書を著わす人は、それは申し分のない物になったと認めるであろう。

本書の形式は、直ぐにお分かりになるが、パトロニーオがルカノール伯爵と語るといふものである。

「ルカノール伯爵様」とパトロニーオは言った。「これまで私は出来る限り明瞭に話して参りました。殿のご所望を承知しておりますので、以後も同じ事柄を述べるつもりでございますが、前書とは異なる形式となります」

第一の書は完了したので、この第二の書はこのように始まる。

「多数の見解がある事柄には一般規則は与えられない」

「非の打ち所のない人とは真理を悟りそれに従う人である」

「愚か者とは永続しそして計り知れない価値あるものを捨てたり、失ったりする人で、消え失せてしまうものを見抜けない人である」

「理解の及ばないことを理解しようとする人は賢明ではない」

「誰にも起こらなかったことが自分には起こるだろうと考える人は愚かである。予防策を講じる必要はないと考える人はもっと愚かである」

「おお神よ、全能なる造物主よ！ あなたがご自分の姿に似

せて愚かなる人間をお創りになったのはなんと驚くべきことか！口を開けば間違え、口をつぐめば臆病さが顔を出し、富むと高慢になり、貧すると蔑まれ、何かをしようとしてもうまくゆかず、無為に過ぐすと持物を減らし、弱者には横柄で、権力者にはへりくだり、力づくには易々と折れ、嘆願には意地悪くし、すすんでお役に立とうとするが応じるのが遅かったりしくじったりする。なんでもしつこく求めるのに与えるとなると出し惜しみしてごまかそうとし、自分の誤りを恥じず戒めてくれる人を憎んだりする。喜ばせようとすると腹を立て口から醜悪な言葉が溢れ出る。うたぐり深くて口が軽く、理由もないのに驚き、不要なときに努力し、楽しいと思う所で気が滅入り、長所は少なく短所が多い。意に反する忠告は無視する。訓戒を聞かねばならぬ人は厄日に生まれた。同伴にあずかっても感謝せず労を煩わせてしまう。言行が一致せず、どうでもよいことには間違いをしない。言うことは理解されないし言われることは理解されない。いつも仲間と諍い、快楽にうつつを抜かし明日のことなど考えない。自分に甘く他人には厳しい。愚弄しているつもりが愚弄され、やるすべを心得ておれば騙そうとする。一番気に入っているものが、そうではなくとも、最良だと考える。自分は楽をしたいのに他人には耐乏するように願う。何をさらに申し上げようか？ 言行はもとより総てのことを間違える。その上、愚かさが顔に現れる。多くの人は愚かなのにそう見えはしないが、見える人は必ず愚かだ」

「万物には終りがあり永続することはない。多大な労力を費やして身を維持しても悲嘆とともに消滅する。永遠なるものは神の愛によって造られるもののみである」

「金を稼ぐしか能のない人は分別ある人ではない。分別ある人は金を有効に使いそこから利益を上げる人である」

「正しく話し上手に意見を述べた人が分別ある人というわけではない。正しい行いが伴ってこそなのである」

「重要ではない事柄にはそれ相応の行動が必要であるが、重要な事柄にはそれ相応の行動が必要である」

「虚飾で装うよりも裸でいるほうがよい」

「品性が下劣で悪癖のある息子を矯正することのできぬ人は子を持たぬほうがよいであろう」

「悪友に伴われるよりも独りで行くほうがよい」

「強情な女と一緒にいるより独りでいるほうがよい」

「悪銭は溜まらない。溜まっても身に付かない」

「自らの財産を管理できぬ者は他人のことに口を出してはいけない」

「事物は近くにも遠くにもあるが、信頼できるものに身を委ねることが肝要である」

「性急や怠慢から多数の間違いが生じるが、両方を避けられる人は賢明である」

「賢者とは混乱の時代に身を守り耐え忍べる人である」

「助言者が自らの利のほうを留意しているのではと懸念する

人は非常に危惧すべき状態にある」

「時機を失して種蒔く者は乏しい収穫に驚くな」

「良く見える物は良いのであり、悪く見える物は悪いのであるが、良く見えても悪いのもあれば悪く見えても良いものもある」

「真つすぐな道を歩んでいても探し物が見つからない人は、曲がりくねった道を歩んでいて見つける人よりもすばらしい希望を持つことができる」

「不正な君主の寵臣となるよりは彼から離れるほうがよい」

「心から誤りを気付かせてくれる人は愛してくれているからであるが、へつらう人は憎んでいるからである」

「理性より感情に従う人は心身を危険に曝す」

「理性の喜びより肉欲の快楽に身を委ねることは、心を滅ぼし名を汚し身体を弱め知性と品性を衰えさせる」

「何事も度を越してはいけない」

「物による友情は永続きしない」

「悪い仲間に入りたがるのは良くないことだ」

「圧制や不正な行為で民を支配しようとする者は民心に見放され別の支配者にとって代わられる」

「よくあることだが、家柄にふさわしくない振る舞いは由々しいことである」

「類は友をよぶ」

「知性を有すほうが幸運や財産や家柄を手にするよりよい」

「人は知力と努力は別のものであると考えたり、同じものであると考えたりする」

「不正な手段で得るよりも公正に振る舞って失うほうがよい。

正義は正義を助けるから」

「何人も運を信じてはいけない。時期が変われば運も変わる」

「貧富や幸運不運によって神を捨ててはいけない」

「人は援助者からの恩恵よりも邪魔者からの害のほうを多く受ける」

「敵を片づけずに遠ざける者は賢明ではない」

「再起できぬ者が他人を再起させ得ることはない」

「阿る者は蔑まれ、荒くれ者は嫌悪される。良識ある者は節度を守る」

「ささいな利益に身を賭す者は愚かである」

「恐怖に耐えて泰然としておれる者は幸せだ」

「利となることを言ったり行ったりできる者はやりなさい。できなければ、不利になるようなことを言ったり行ったりすることを避けなさい」

「尤もな謙遜は称賛される」

「高く登るにつれて墜落は致命傷となる」

「君主の善心は行為と法に顕われる」

「民から受領せねばならない物を放棄する君主は最後に余分な物まで取り上げる場合もある」

「必要としている人に手を差し延べぬ者は自分が望む時には

得られない」

「身体に悪い物を口にするより空腹を忍ぶほうがよい」

「無法者は力づくで使え、善人は愛と善行で使える」

「快い真実もあれば苦い真実もある」

「他人の代わりに不評を買っても己の評判を落とすものではない」

「欲張る者はその欲心故に嫌われる」

「己を知らぬは最大の無知。どうして他人を知りえよう」

「賢者は損をして得することができ、得をして損することもできる」

「賢者は己の至らなさを知り、無知はそれを知らず」

「褒美という階段は目論見であり、その段は行為である」

「最後に留意を払わぬ者は最初を間違えることになる」

「願いを叶えたい者は叶えられるものを願え」

「やりたいことができぬ時は、やれそうなることを願え」

「理性ある者は狂人を許容できるが、狂人は理性ある者を許容できず虐げる」

「王たる王が君臨し、王たらざる王は君臨するのではなく君臨される」

「神の名を唱え神のことを語る者は多いが、神の道を辿る者は少ない」

「おぞましいことは、唾者が教え、盲人が案内し、不具者が跳ぶことであるが、さらにおぞましいことは、親切めかして悪

事を働くことである」

「他人をおとしめようと罾を仕掛ける者は己がそこに落ちるであろう」

「不真面目な暮らしをする者の助言は見下されるにちがいない」

「真理を語る者は多く、その道を歩まない者も多い」

「敵が仕掛けた罾に敵を嵌め込んだ者は運の好い聡明な者だ」

「堅固な住居を望む者は土台と柱と屋根に気を配れ」

「真理を語ってそれに従い無駄口を利かぬことが人を高位に着かせる」

「人が持つ最良にして最悪なるものはその心である」

「難しい年頃になる前に子供を教え諭すよりも懲らしめる者は彼らの心に傷を残すことになろう」

「人がこの世で求め得る最良のものは汚れのない安らぎである」

「口を利くことは良いことも悪いことももたらす」

「口を閉ざすことは良いことも悪いことももたらす」

「良識と節度と知性が物事を識別し評価する」

「遠路を歩み隘路を通らねばならぬことを承知するが故に、荷を減らし食糧を増やす者は賢明なり」

「知性と見識と良識を併せ持つ王は民にとって幸福である。その逆は不幸である」

「金の亡者となって神の意に背く者をそのままにしておく者

が神の不興を買っても当然である」

「神に勝利をもたらされた者は敗北の原因となった敵の誤りを犯してはならない」

「神の思召によりなされた名立たる崇高な偉業の原因となった行為は偉大な行為ではない。そうなるように定められた行為であるからだ。取るに足らないありふれた行為が、見事になされた名だたる崇高な偉業の原因であれば、それこそ立派な行為なのである」

「自らの体質と熾烈な戦いによって大国は滅び征服される」

「操船、戦勝、治癒、種蒔、結婚は知恵と神の御意志と御加護がなければなし得ぬことである」

「敵が身柄や問題を信用して任せぬ間は何人も誠実無比と称えられないであろう。味方の信用を得ない者が声望の得られるはずはない」

「公正にして誠実、そして正義を愛す君主と名医と豊富な水のない所で住もうと思う者は自身と周囲の者を危険に巻き込む」

「どんな人も善良ではあるが、万物にたいしてではない」

「神は人が行う悪事を見守られる。それを隠せばさらに多くの悪事を働くはずであるからだ」

「偽誓するのが分かっている者に誓わせる者は罪に加担することになる」

「善人と悪人に立派な振る舞いをする者は前者からは恩恵を

受け後者からは守られる」

「王を敬い、その子には従い、年長者を尊び、年少者は愛で、真友に助言を求めれば、人は心安らかに過ごせて悔いることはないのである」

「神の御手より下される災いや不運を蔑ろにする者にそれらが下されない保証はない」

「何人も善行をなそうと思うからには直ちに行うべきである。その思いが冷めぬ間に」

「口だけ清めてその他で罪を犯すのは醜悪である」

「信頼して身を危険に曝す前に友をしっかりと選ぶ必要がある」

「むやみやたらに誉めそやす者はむやみやたらに非難するであらう」

ルカノール伯爵とパトロニーオの書 第三部

ルカノール伯爵に対する

パトロニーオの弁明

「ルカノール伯爵様」とパトロニーオは言った。「第一の書 擱筆後、ご所望通り第二の書では前者よりも簡潔であいまいに著わすことに致しました。後者では前者よりも短文を用いて記しましたが、有用さと教訓についても劣るものではなく、むしろ前者を究め会得することのできる者にはより優れた書である」とご承知おきください。前者は五十のそして後者には百の教訓

が入っているからでございます。両者には多数の教訓が入っておりますので、殿にはご満足していただかねばならないのではと考えます。ただ今から休息することをお許しただけですれば幸でございます」

「パトロニーオ」とルカノール伯爵は返答した。「お前も承知しておることだが、人間は生まれながらにして決して三つのこと、つまり、知識、名声、それに一生過ごせるだけの富のみに満足を覚え、常にそれ以上のことを欲するものである。知識は役立つものであるから、可能な限り多くの知識を身に付けたいと思っている。故に、お前は断るべきではないと考える。お前の外にすばらしい知識を授けてくれる者がおらぬことは熟知しているのです、お前が存命中は総ての知識を教授するよう催促し続けるであらうことを承知しておいてくれ」

「ルカノール伯爵様」とパトロニーオは言った。「立派な論拠と考えが殿のお心を動かしていることが分かりましたので、いっそう勤めに励む所存にございます。そこで、これまで申し上げなかったことをお話し致すつもりでございます。何故なら、特に有益なことではなければ同じことを繰り返し述べるのは、語り手が、聞き手は愚かなので幾度となく繰り返さなければ理解しないだろう、と思っっているか、書くべきことが分からないので水増ししようと考えているかのいずれかだからでございます。では、申し上げねばならないことを始めることに致します」

「高価な物は値が高い。高くはつくが高値のまま推移し、最

後まで高い。また、安価な物は値が安い。安くはつくが安値のまま推移し、最後まで安い。高価な物は安くつき、安価な物は高い」

「信じ難いことは、間違いをしでかした上につまらない理由から、恩義があるにもかかわらず離れて行った者に対して立派に振る舞い信頼を寄せる人である」

「今日の友が明日の敵にはならないなどと考えてはいけない」

「人に迷惑をかける者は自分もそうされると思っておくべきだ」

「良識により良識は保たれる」

「良識は無知なる者に分別を与える」

「良識がなければ良識は保たれない」

「神とはこうだ、その業績はああたと、神のことをあれこれ口にする者はほとんど神を知らないからだ」

「相手と友情を結ばなくとも敵に回さない者は賢明である」

「他人の知識を総て吸収しようとする者は間違っている。役立つことだけを学ぶ者は賢明である」

「助言はそれが高尚なものであれば、つまり、多くのすばらしい助言を引き出す素であれば、良い助言である。悪い助言を良いものに変えることのできる者は分別がある。悪い助言は分別を鈍らせる」

「良い助言には良い分別が必要である」

「良い助言を与え、望み、そして、それに従う者は善行を行

う」

「大きな悲しみは小さな悲しみを忘れさせる」

「同時に多くのことについて話さねばならない者は糸の端が沢山ある糸玉をほどく者と同じである」

「物は総て小さく生まれ、それから大きくなる。悲しみだけは大きく生まれ、時を経るにつれて小さくなる」

「敬意を払う者は敬意を払われる」

「人の面目を立ててやると自分の面目が立つ」

「賢者は毒蛇の毒をも万能薬に変えるが、愚者は雌鳥から毒を絞り出す」

「掌中の権力を手放す者は望んだときに取り戻せるとは限らない」

「他人の名声を高めるために自らのを失墜させる者は愚かである」

「報償を願って善をなす者は不善をなしているのである。善は完徳への道であるから、無償の善を行わねばならない」

「無償の善がなされてこそ良いのである」

「善を行うことにより無上の幸福に至る」

「腐った食べ物や悪習は身体や財産や名声を危うくする」

「取り戻せない失物を悲嘆し、避けられない危難にうろたえる者は理性的には振る舞えない」

「吝嗇家から僅かな物を得るには非常に苦勞する。強欲者に求めるのはなおさらだ」

「理性は新たなる理性の根拠である」

「理性により人は理性ある者となる」

「理性は理性を生み出す」

「理性は人を人たるものにする。理性がある故に人たるのである。理性の豊かな人であればあるほど優れた人であり、理性の乏しい人であればあるほど劣った人なのである。理性のない人は人ではなく物なのである」

「辛抱強い人は身に及ぶ不運にじっと耐え、その後で幸福と喜びを得る」

「偽善者や無法者が惨めな人生を送るのは当然である」

「不信心者が神の御守護を得られないのは当然である」

「人が人であるならば、人たろうと努めるにつれ、立派な人になるであろう」

「身分ある者がとても男らしければ立派な人物であり、大人物である。身分ある者が男らしさに欠ければ欠けるほどつまらない男となるであろう。立派な人は身分ある人なのである。身分ある者が、立派な人物でも偉大な人物でもなければ、大した人物ではない。人間でないほうが良いであろう」

「貧しくても心が広く、豊かであっても節度を守り、若くても純潔で、高貴な身分であっても謙虚であることは血を流さずに人を殉教者にする」

「手の届かない物を望んだり、不可解な物を詮索する者は分別ある振る舞いをしない」

「人は父親が祖父から受け取ったものを息子から受け取るのは当然である」

「富は富のためにある。富を増やそうとする者は知識がある。僅かなものの代わりに多くのものを選ぶ。極少の代わりに僅少を選ぶ。絶えず富を目指し、常に富のことを留意せよ」

「大人であればあるほど、謙虚であれば、神の前でさらに多くの恩恵に気づくであろう」

「神が隠しておこうとされたものを人が見ても無益である」
「父親の祝福で子供の家は保たれるが、母親の呪咀で土台が壊れる」

「権力者が偉大であれば、偉大な権力者は優れた知識を有す」
「大望は崇高な知識と共にある。権力のすべては神からもたらされ、それを得るのは神の恩恵によることを悟れば権力は増大する」

「自己とその身分の名を高めたい者は、善人に信頼され、悪人に畏れられるように努めよ」

「疑うことと尋ねることは人を真理へ導く」
「欠点で人を嫌ってはいけない。欠点のない者はいないのでから」

「間違いは間違いである。間違いから間違いが生じる。小さな間違いから大きな間違いが引き起こされる。間違いから出た間違いは常に様々な間違いを生み出す。間違いからは間違いしか生じないのである」

「法と真理を味方にし、それらを盾にする者と争う者は愚かである」

「騎士や金銭を叙任したり失ったりするのはたやすいことだ。集めることは難しく、維持することはなおさら難しい」

「賢者に対立者のある時はその力は相手のより上回る。賢者に協力者のある時はその力は相手のよりも下回る」

「力は無理に力を使わせはしない。力は他の力と戦う。時には力を揮わないほうが良い。時折、力は力を増やすと言うが正しくはない。避けられる所では使わないほうが良い」

「過去の出来事に従って行動する人は賢明である」

「地位が高くなれば望も大きくなり、低くなれば不安が増す」

「病は苦しみで治るのではなく、良薬で治る」

「愛は愛を高める。誠実な愛こそ愛なのである。過度の愛は愛ではない。愛は過度の愛を憎しみに変える」

「わくわくさせる心配もあれば、萎縮させる心配もある」

「出来る限り、力でよりも能力で評価するほうがよい」

「誠実な人はあるがままのことを言うが、抜目のない者は望んでいることを言う」

「幸福な人生が人生であり、幸福な人生は活気を与える」

「生氣のない人は活力を与えられない。生氣のある人が活力を与えられる」

「不幸な人生は人生ではない」

「活力のない人生は人生ではない」

「人生を全う出来ない人は徳義に順じて暮らすように努めよ」